

## カリガネ *Anser erythropus*

環境省レッドリスト  
絶滅危惧IB類(EN)

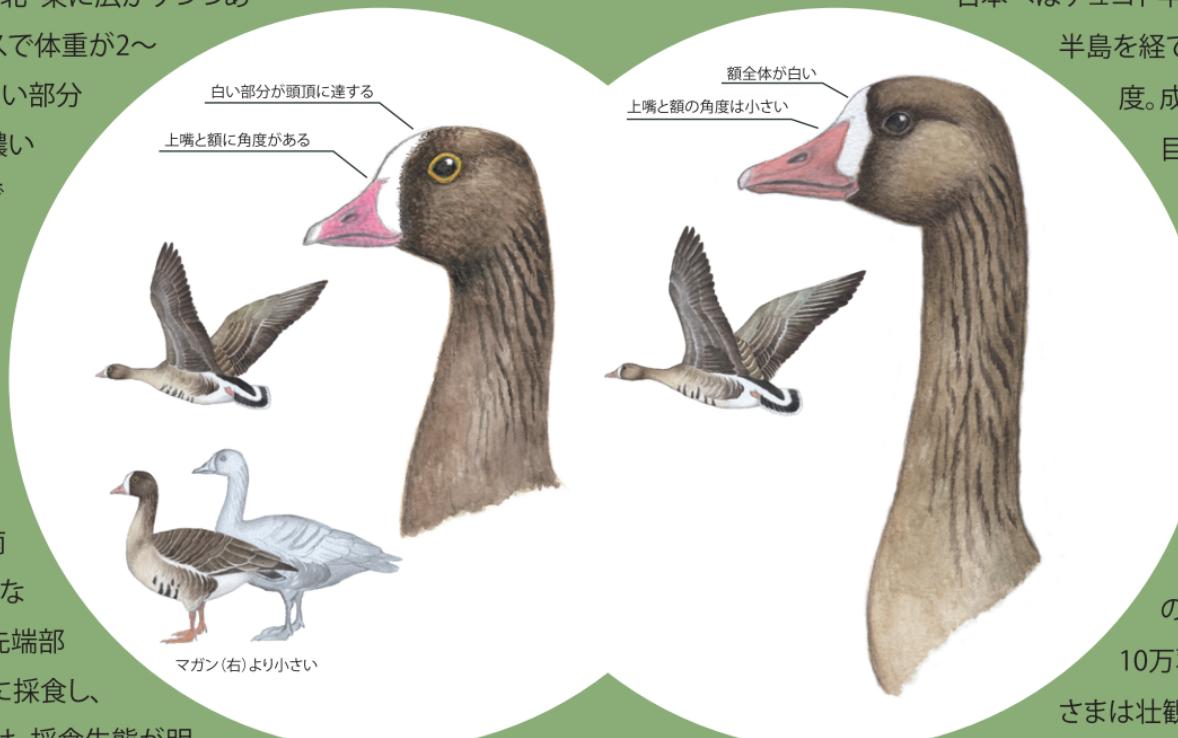
ツンドラとタイガの接する環境で繁殖するが、近年ロシアの東部ではその生息地が北・東に広がりつつある。マガンより一回り小さく、オスで体重が2~2.2kg程度、成鳥では額の前の白い部分が頭頂にまで達している。嘴は濃いピンク色で短く、上嘴が付け根で明瞭な角度をなし、頭部全体が台形に見える。「キュー、キュー」と短い声で鳴く。北海道では、道北のサロベツ原野が中継地。本州では300羽程の個体が伊豆沼、厳冬期は登米市の平筒沼をねぐらとして利用し、主に登米市南方町の採草地で、アルファルファなどの牧草を好んで食べる。草の先端部分だけを歩きながらむしるよう採食し、立ち止まる時間のあるマガンとは、採食生態が明らかに異なる。別名、金目、百目など。

## マガン *Anser albifrons*

環境省レッドリスト  
準絶滅危惧(NT)

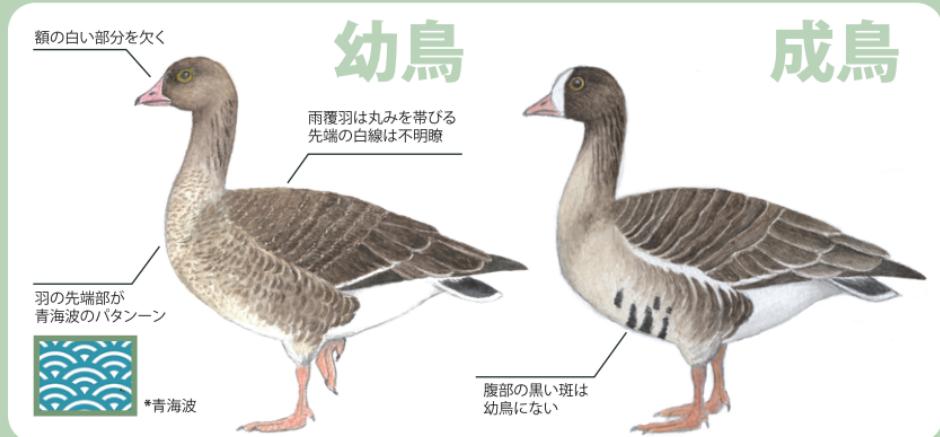
ツンドラ(高木が育たない永久凍土地帯)で繁殖し、日本へはチュコト半島に分布するものがカムチャツカ半島を経て飛来する。体重はオスで2.5kg程度。成鳥では、額前部の白い部分がよく目立つ。「キャハハン」と甲高い声で鳴き、塘である湖沼やその周辺の水田などで大きな群れをなす。北海道美唄市の宮島沼が春秋の最も重要な中継地で、最近は十勝や道東にも分散している。本州では宮城県の北部が最大の越冬地で、最多で20万羽が飛来する。日の出・日没の時間帯に沼を出入りし、特に早朝10万羽を越す大群が一斉に飛び立つさまは壮観。別名、白腹(=幼鳥)、まつかわ(=成鳥)など。

## Lesser White-fronted Goose ID Card



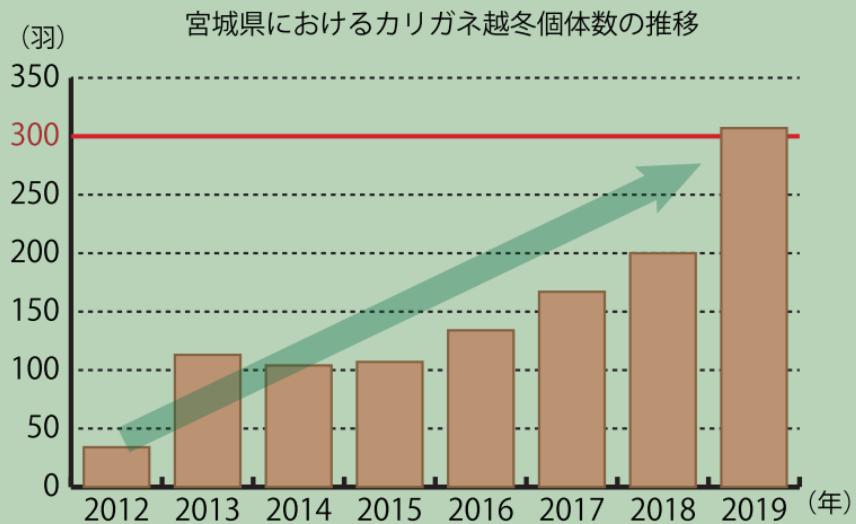
# カリガネの成鳥・幼鳥の見分け方

- (1) カリガネの幼鳥には、成鳥で顕著な額の白い部分が欠けている。
  - (2) 胸から腹部の羽の先端部が「青海波(\*)」のパターンになっている。
  - (3) 背中の雨覆羽は丸みを帯びていて、先端部の白線が不明瞭である。
- 成鳥に見られる腹部の黒い斑は幼鳥ではない。



## カリガネの国内における分布

日本におけるカリガネの越冬地は、宮城県北部と島根県斐伊川流域である。主な中継地はサロベツ原野となっており、秋の渡り時期にはサロベツ原野以外ではほとんど見られない。主要な越冬地は宮城県登米市で、2019年度には300羽を超えるカリガネが越冬するなど、増加傾向にある。斐伊川流域では、マガンの群れに混じって少数が観察される。東アジアで最も重要な越冬地であった東洞庭湖では、個体数の減少が著しく、日本での個体数増加と関連があると考えられる。



ガンカモ類国内生息地ネットワーク カリガネ識別資料 ▶

作成:雁の里親友の会 イラスト:川崎里実  
協力:宮島沼の会 デザイン:大久保香苗

Lesser White-fronted Goose ID Cardは、  
独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の  
助成のもと制作されました。

